学校番号	T3024

平成 31 年度　理科

教科	理科	科目	物理基礎	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	改訂　新編物理基礎（東京書籍）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てる」小・中学校での理科の学習を終えて、人と自然について「運動とエネルギー」、「熱」、「波」、「電気」という４つの視点を見ると、どのように見えてくるのか？どのように生き、行動すれば人と自然を大切にし、健康な生活を送れるのか？この２つの問題を常に意識して、学び考え続けてください。

2　学習の到達目標

自然に対する関心や興味を高め、物理学的に探求する態度や能力を育てると共に、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心をもち、意欲的に探求しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身につけている。	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物体と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物、現象を科学的に探求する技能を身につけている。	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。
評価方法	・記述の点検（レポート）	・記述の点検（レポート）	・観察・実験の記録（スクーリング） ・記述の点検（レポート）	・記述の確認及び分析（レポート） ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	物体の運動とエネルギー	直線運動の世界 力と運動の法則 日常に潜む力 仕事とエネルギー	 ○ ○ 	 ○ ○ 	○ 	 ○	a:身のまわりの力について関心を持ち、意欲的に探求しようとする。 b:作用・反作用の法則と力のつり合いの違いについて考察し、導き出した考えを表現している。 c: 等速直線運動・等加速度運動について、観察・実験を行い、加速度の公式と計算方法を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理している。 d: 力学的エネルギー保存の法則について理解し、エネルギーの変換についても知識を身につけている。	・定期考査 ・レポート
後期	さまざまな物理現象とエネルギー	熱 波 電気	 ○ 	 ○	○ 	 ○	a:いろいろな波や波の伝わり方にて関心を持ち、意欲的に探求しようとする。 b: 電気のはたらきについて考察し、導き出した考えを表現している c:熱と分子・原子の運動の関係について、観察や実験を通して学習し、それらの過程や結果を的確に記録、整理している。 d: 磁界とモーターの関係について、理解し知識を身につけている。	・定期考査 ・レポート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:観察・実験の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。